

第4章 実施方針

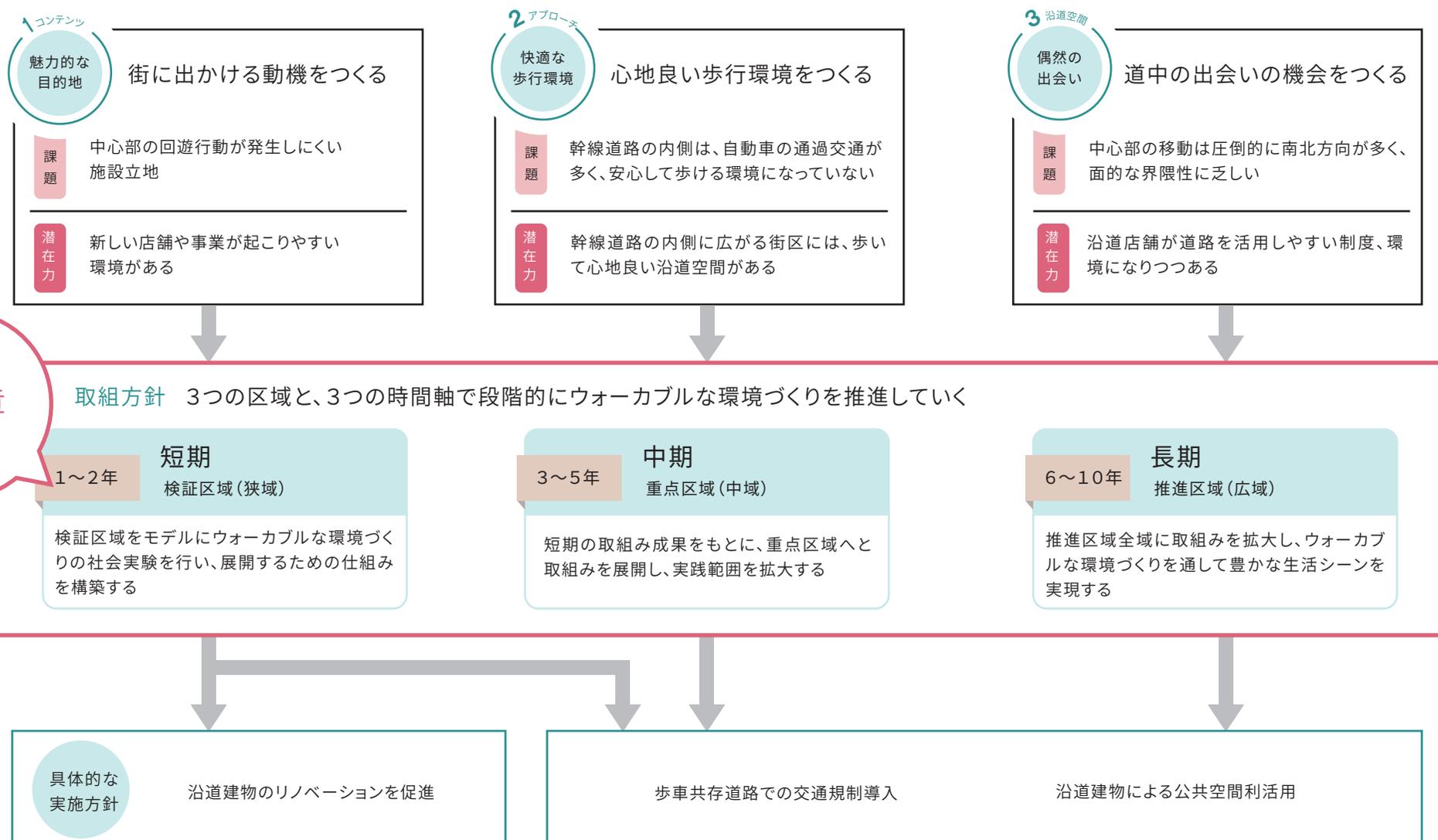


- 4-1 第4章の構成
- 4-2 推進区域 / 重点区域 / 検証区域の考え方
- 4-3 推進区域（長期）の考え方
- 4-4 重点区域（中期）の考え方
- 4-5 検証区域（短期）の考え方

4-1. 第4章の構成

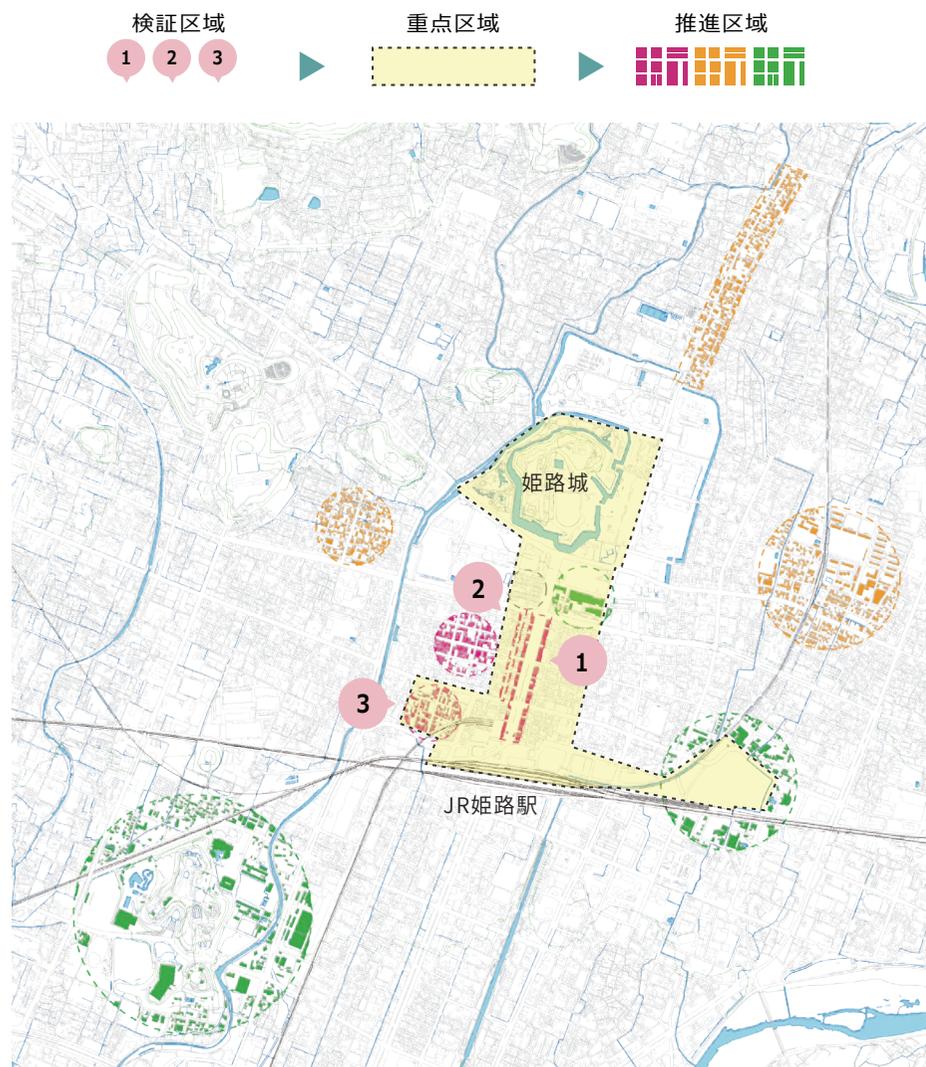
ウォーカブルな環境の目標：居心地が良く歩きたくなるまちなか

目的：街に選択多様性をつくり、豊かな生活シーンを生む



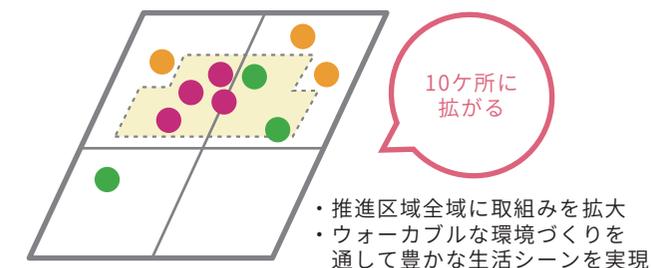
4-2. 推進区域／重点区域／検証区域の考え方

1) 3つの区域と、3つの時間軸で段階的にウォーカブルな環境づくりを推進していく



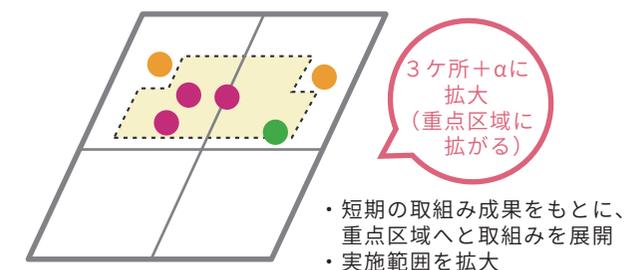
6～10年 長期 推進区域(広域)

長期的には、中心部にウォーカブルなエリアが増加し、様々な目的が生まれ、多様な人が集まり、エリア間を歩いて楽しめる街となることを目指します。



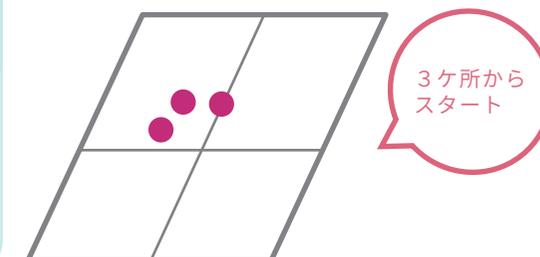
3～5年 中期 重点区域(中域)

中期的には、短期の取組み成果をもとに、中心部の重点区域においてウォーカブルな環境づくりを進め、行きたくなる魅力的な目的が増えネットワークが広がることを目指します。



1～2年 短期 検証区域(狭域)

短期的には、検証区域として複数場所で象徴的なプロジェクトの目指すシーンを実験し、ウォーカブルな取組みの機運を醸成していき、展開するための仕組みを構築します。



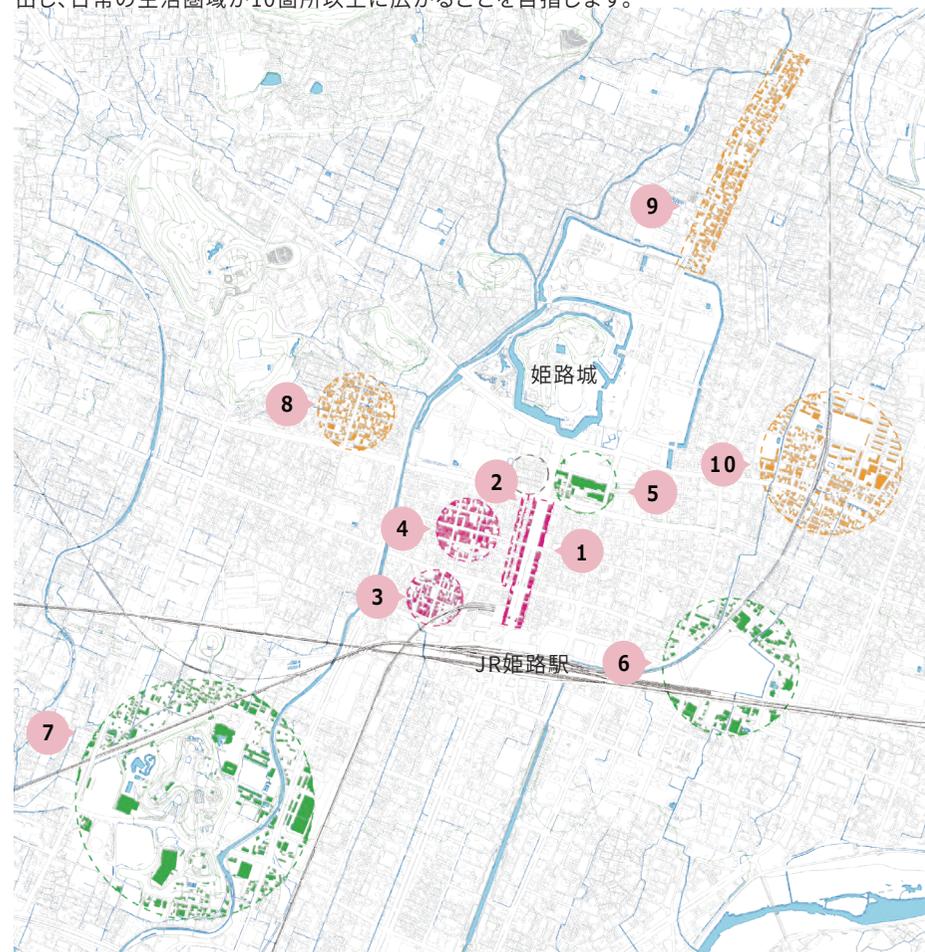
4-3. 推進区域(長期)の考え方

6~10年
長期
推進区域(広域)

1) ウォーカブルな環境を推進する10の区域設定

✓ 姫路の日常の生活圏域

現在のまちなかには魅力的なお店や空間があるエリアが各所にあります。長期的にはこの日常の生活圏域の各所で道路と沿道建物が一体的に活用され、エリアの魅力がまちなかににじみ出し、日常の生活圏域が10箇所以上に広がることを目指します。



タイプ 商業系
人 ワーカー・住民
活動 週末・夜

主に週末や夜などワーカーや住民が活動するエリア

1. 大手前通りエリア



2. 中ノ門筋エリア



3. 駅西エリア



4. 魚町エリア



タイプ 文化系
人 市民
活動 余暇

主に週末や余暇の際に市民が来街するエリア

5. イーグレひめじエリア



6. コンベンションエリア



7. 手柄山エリア



タイプ 住宅系
人 住民
活動 毎日

主に日常生活で住民が徒歩で移動するエリア

8. 龍野町エリア



9. 野里エリア



10. 京口駅エリア



4-3. 推進区域(長期)の考え方

6~10年
長期
推進区域(広域)

2) 推進区域の目指す姿

POINT

長期的には10の推進区域で豊かな生活シーンが形成され、
区域間の回遊性を生むことで、中心部が歩いて楽しい場所となることを目指します

タイプ
商業系

人 ワーカー・住民 活動 週末・夜
主に週末や夜などワーカーや住民が活動するエリア

1. 大手前通りエリア

選定
ポイント

姫路のメインストリートであり、市民にとっても来街者にとっても魅力が高まることで望まれる場所であるため。

目指す姿

将来的に沿道建物の低層部に歩いて楽しめる用途が入り、道路と沿道建物が一体的に活用され、豊かなシーンが生まれる。

2. 中ノ門筋エリア

選定
ポイント

江戸時代、姫路城への南北のメインストリートであり、現在に至るまで幅員が変化していない道でかつての城下町のスケール感が残るため。

目指す姿

市民の日常的な目的地が点在し、観光客もそぞろ歩きを楽しむことで、両者の交流が生まれる。

3. 駅西エリア

選定
ポイント

駅近ながらも家賃が比較的低く、地元の若い事業者によるリノベーションまちづくりが進んでいるエリアであるため。

目指す姿

意欲的な事業者による魅力的な目的地が生まれ、多様な人々が日常的に歩いて楽しんでいる。

4. 魚町エリア

選定
ポイント

姫路の代表的な繁華街の一つであり、飲食店の面的広がりが最もあるため。

目指す姿

飲食用途中心にナイトタイムエコノミーの舞台となる。

タイプ
文化系

人 市民 活動 余暇
主に週末や余暇の際に市民が来街するエリア

5. イーグレひめじエリア

選定
ポイント

イベント利用が活発な大手前公園と、公民連携で運営しているイーグレひめじとを連携した活用が図れる場所であるため。

目指す姿

大手前公園 - 道路 - イーグレひめじが、一体的に利用されている。

6. コンベンションエリア

選定
ポイント

姫路の新しい文化拠点施設として、観光客とは異なるビジネスやエキシビション中心の来街者が集うだけでなく、憩いの場として周辺住民が集う場所であるため。

目指す姿

来街者が集まる非日常のシーンと、周辺住民や市民が中心に使う日常のシーンが複合的に現れている。

7. 手柄山エリア

選定
ポイント

水族館や庭園、植物園や新設のアリーナ等、目的性の高い過ごし方を提案できるエリアであるため。

目指す姿

週末を中心に、家族連れなどのレジャー客や様々な種類のスポーツ選手・関係者が快適に過ごせる空間となる。

タイプ
住宅系

人 住民 活動 毎日
主に日常生活で住民が徒歩で移動するエリア

8. 龍野町エリア

選定
ポイント

建物の更新は一定程度進んでいるが、戦災を免れた事で、かつての街のスケール感が残る住宅地であるため。

目指す姿

近隣住民の方々が軒先で井戸端会議を行い、子ども達は家の目の前で安全に遊んでいる。

9. 野里エリア

選定
ポイント

古くからの歴史的な街道筋であり、町家が多く残っており、住宅地としてだけでなく町家を活用した店舗などによる商店街としての側面を併せ持つため。

目指す姿

歴史的な街並みを生かした、店舗や住宅などが道路を活用している。

10. 京口駅エリア

選定
ポイント

市内に複数ある小規模駅周辺地域のモデルとなり得る住宅系用途中心のエリアであるため。

目指す姿

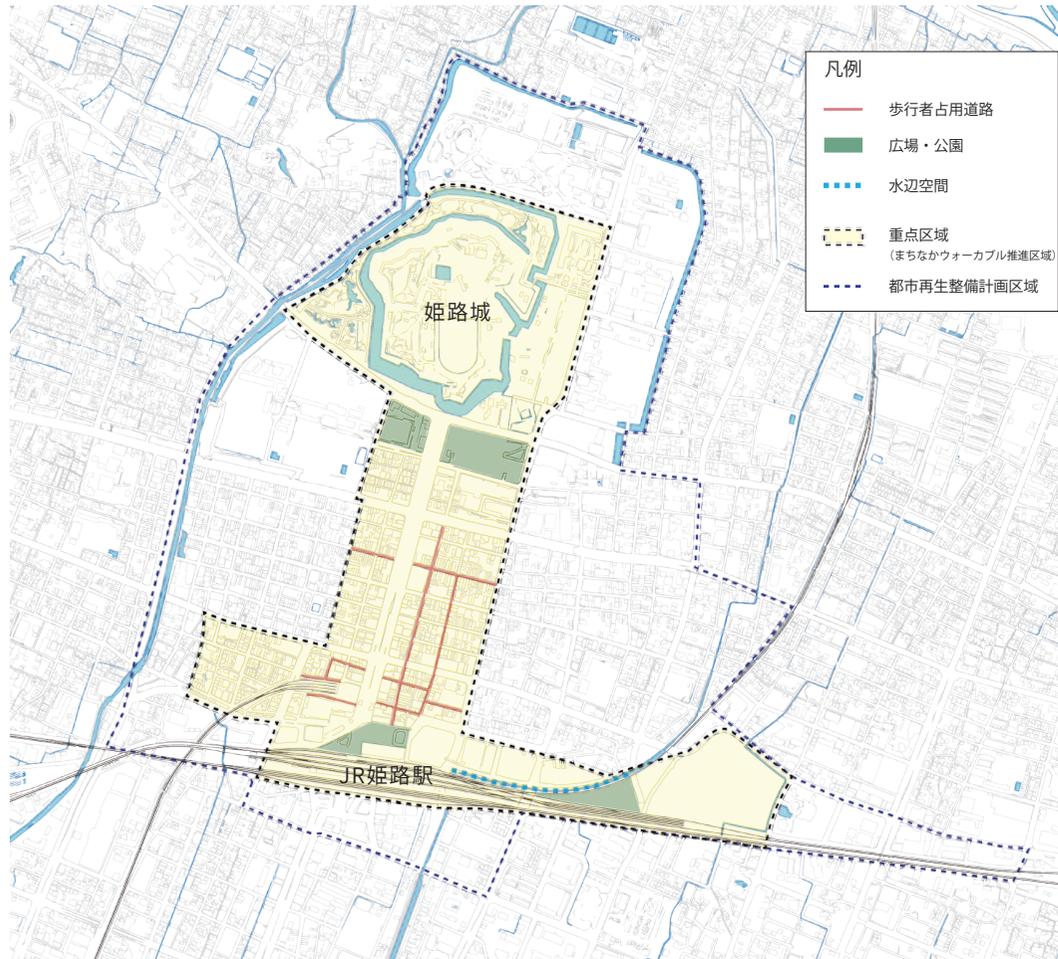
住宅地にある小規模な駅で、駅前空間や道路が住民の生活の延長として活用されている。

4-4. 重点区域(中期)の考え方

3~5年

 中期
 重点区域(中域)

1) 中心部における重点区域の選定



重点区域の設定基準

重点区域は次の展開可能性がある場所をもとに選定しています。

1. 歩車共存道路を含むエリア

展開可能性

歩車共存道路沿いには、古い建物などが残っており、歩いて散策を楽しむ場所となる可能性があります。

2. 多様な生活シーンが生まれる用途混在エリア

展開可能性

用途が混在するエリアでは、人々の多様な過ごし方や出会いの機会が生まれる可能性を持っています。

3. 公共交通や駐車場からのアクセスが行いやすいエリア

展開可能性

公共交通や駐車場からのアクセスが行いやすいエリアは、駐車後などに歩いて散策を楽しむ場所となる可能性を持っています。

4. 沿道建物・空間の潜在力が高いエリア

展開可能性

道路に建物内部のにぎわいがにじみ出しやすいエリアは、まちなかを散策して歩いて楽しい場所となる可能性があります。

5. 商店街等の歩行者専用道路

展開可能性

歩行者専用道路で1階に店舗が多い通りは活用の促進と居心地が良く歩きたくなるような仕掛けを実施できる可能性があります。

6. 公園、広場、水辺等の公共空間

展開可能性

活用の促進と居心地が良く歩きたくなるような仕掛け、現在使われていない水辺空間を活用したにぎわい等が生まれる可能性があります。

4-4. 重点区域(中期)の考え方

3~5年
中期
重点区域(中域)

2) 展開場所の特徴

展開場所

歩車共存道路を含むエリア

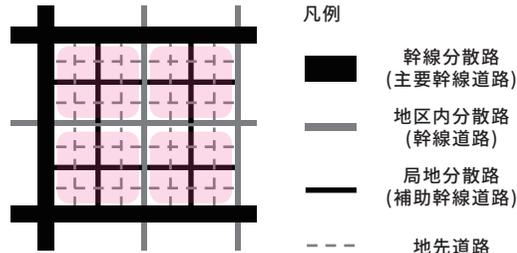


図:道路の段階的な構成

中心部の骨格となっている幹線道路の整備は概ね完了していますが、幹線道路の内側部分は歩車共存道路になっています。それらのエリアを含むことで歩きたくなる環境を目指します。

展開場所

多様な生活シーンが生まれる用途混在エリア



図:2014年 姫路中心部の建物用途現況図

中心部では、商業用途や業務用途、住宅系用途など多様な用途が混在しています。それらのエリアを含むことで多様な過ごし方や出会いの機会が生まれることを目指します。

展開場所

商店街等の歩行者専用道路



歩行者専用道路

中心部には商店街が多くあり、それらの歩行者専用道路で沿道に店舗が多いエリアを含むことで歩きたくなる環境を目指します。

展開場所

公共交通や駐車場からのアクセスが行いやすいエリア

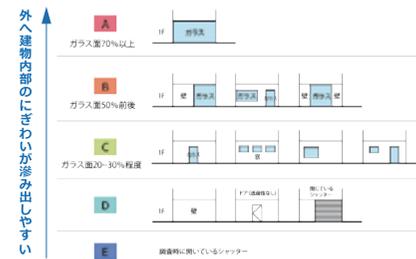


図:重点区域の公共交通の圏域

中心部は、駅勢圏(駅から半径800m)やバス停圏(バス停から半径300m)の範囲内に含まれます。それらの範囲を含むことで市民の週末利用圏域、来街者の行動範囲で歩きたくなる環境を目指します。

展開場所

沿道建物・空間の潜在力が高いエリア



通りを歩いていて沿道建物内部のにぎわいが感じられる要素として、建物外観の開口部の大きさがあります。その要素が多くあるエリアを含むことで通りににぎわいがにじみ出し、建物と一体的に歩いて楽しい場所となることを目指します。

展開場所

公園、広場、水辺等の公共空間



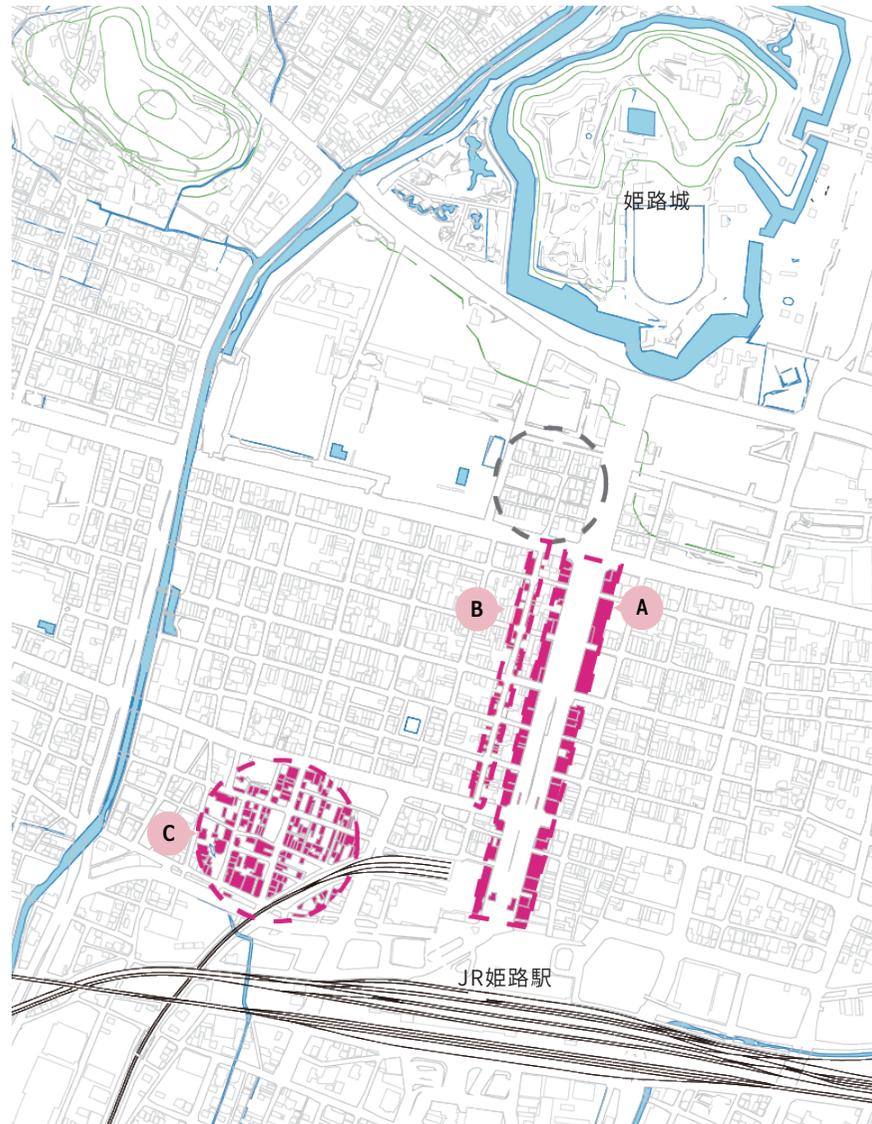
外堀川

中心部には質の高い公共空間が多くあります。それらの公共空間の活用促進を行い、また一方でまだ活用がされていない水辺空間等を活用することで、にぎわい等が生まれることを目指します。

4-5. 検証区域(短期)の考え方

短期
1~2年
検証区域(狭域)

1) 姫路の街の特徴を反映するエリアでの検証



✓ 検証区域



A. 大手前通りエリア 姫路城へのメインストリート

姫路のメインストリートである大手前通りの再整備は令和2年3月に完成し、歩きやすくひと中心の環境が整っていますが、沿道1階部分に歩いて楽しめるカフェや店舗等の用途がなく、道路と建物1階が一体的になっていません。中心部に回遊性を生むためには重要なメインストリートであり、ひと中心の空間活用を進めていく上で優先し環境的にウォークラブルな通りとする必要があります。駅前から、大手前交差点までを検証区域とします。



B. 中ノ門筋エリア 歩いて楽しめる小規模な店舗のあるエリア

カフェなどの商業系用途、オフィスなどの業務系用途や住宅の用途が混在したエリアであり、多様な過ごし方や出会いの選択肢が生まれる可能性があります。また姫路城とJR姫路駅の間点であることから回遊性や界隈性の向上が期待できます。



C. 駅西エリア 新しいチャレンジングなエリア

単一用途だけではなく複合的な用途で構成されたエリアであり、魅力的な飲食店や小売店が立地し、今後の空き店舗再生の取組みも進んでいく可能性があるエリアです。中心部の回遊性を東西方向へ広げ、にぎわいを波及していくためには優先的にウォークラブルなエリアとして機運を醸成する必要があります。

4-5. 検証区域(短期)の考え方

1~2年

短期
検証区域(狭域)

A. 大手前通りエリア

「歩いて楽しい、大好きなお城への道」～「ひと」が集い「まち」とつながる大手前通り～をコンセプトに、JR姫路駅から姫路城への緑・光・にぎわいの連続性を確保し、人が通行するための歩道から、人が滞留し楽しむための魅力あるストリートになるよう大手前通りの再整備を行い、令和2年3月末に完成しています。

こうした大手前通りのコンセプトを実現するとともに、エリア価値を向上させるため、公民連携の取組みにより利活用を促進して道路空間と沿道建物が一体となった利用シーンの創出を見据え、社会実験を実施しています。



B. 中ノ門筋エリア

中ノ門筋は江戸時代、姫路城への南北のメインストリートであり、現在に至るまで幅員が変化していない歴史的に貴重な通りです。これまで姫路が築いて守ってきた変らぬ歴史性と、通り沿いの飲食店など新たなアイデアでの活用がエリアとして融合し魅力を高めています。

中ノ門筋へのウォーカブルな環境の展開を見据え、まずは本町エリアで沿道活用を検証する社会実験を行います。



C. 駅西エリア

駅西エリアでは、小売業や飲食業にとっては欠かせない卸売店がたくさん存在しています。2018年には、フードや遊びを兼ね備えたイベントとして、「家族で楽しめる忘年会!」をテーマに道路上で畳とこたつを並べて「メ市(しめいち)」を行っています。

こうした取組みがこれまで展開されている背景もあることから、沿道活用の社会実験を行います。



まずは、道路空間の活用を低リスク・低コストで小さく始め、エリアの魅力を高めていく

短期(1~2年)での取組み方針

検証区域では道路を活用した際の効果を測るための社会実験を行うことにより技術的な検証を行うと共に、目指すシーンを再現し、広く関係者や利用者との共有を図ります。



複数の検証区域で社会実験を実施



その成果を踏まえプログラムを構築する



目指すシーンを可視化することで
ウォーカブルな環境を共有する

STEP1 仮説設定

潜在力のある場所を見つけ、その魅力を發揮するために展開できそうな仮説を立てます。

STEP2 チーム構築

いきなり本格的な実施検討に入る前に、まずは仮説を立てて小さく検証するためのチームを構築します。

STEP3 社会実験

低リスク・低コストな社会実験による検証を積み重ねながら、そのエリアにあった内容を確認するとともに、目指すシーンの共有を広げ可能性を広げていきます。

4-5. 検証区域(短期)の考え方

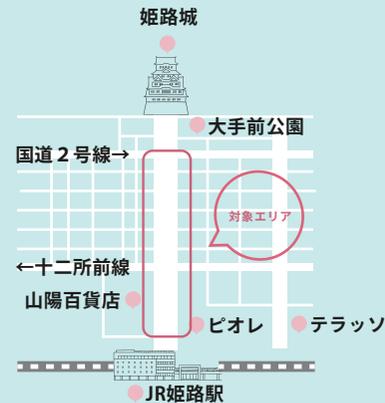
短期
1~2年
検証区域(狭域)

具体的な実施事項
沿道建物のリノベーションを促進
歩車共存道路での交通規制導入
沿道建物による公共空間活用

2) 大手前通りエリア

POINT

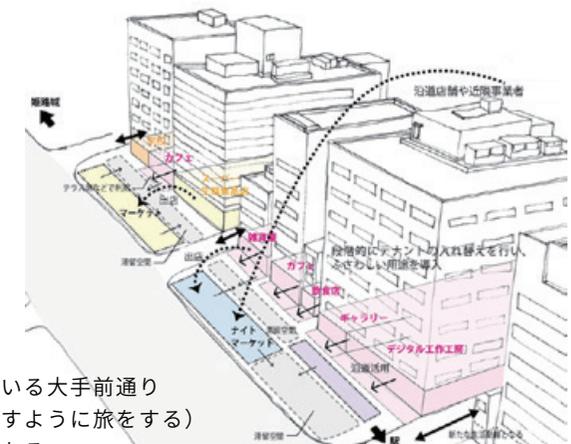
中心部に回遊性を生むために重要なメインストリート



昭和20年(1945年) 太平洋戦争、空爆のため市街地の大部分を焼失
昭和30年(1955年) 大手前通り完成
令和 2年(2020年)3月末 大手前通り再整備工事成
令和 3年(2021年)4月 高さ規制等の変更

✓ 大手前通りの目指す将来像

エリア個性の
『にじみ出し』が
彩る大手前通り



- 1 地域の人々が日常的に憩っている大手前通り
(観光客も日常を体験し暮らすように旅をする)
- 2 若い人のチャレンジの場になる
- 3 魅力的な用途が入り多様な人の目的地になる
- 4 開かれた建物と道路が連動し人の居場所になる
- 5 地域の人や観光客が思い思いに過ごしている

✓ 状況・経緯

大手前通りは姫路の象徴である姫路城とJR姫路駅を南北につなぐシンボルロードです。その大規模な再整備が令和2年3月末に完成し、人が滞留し楽しむための魅力あるストリートへ向けた基盤整備を終えました。

また、令和3年2月12日、にぎわいのある道路空間創出のため、全国で初めて大手前通りを歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)に指定し、道路から街を変えていく機運が高まっています。

さらに、沿道の建築物や屋外広告物等についても、令和3年4月に高さや色彩等の規制内容を変更し、歩行者目線での姫路城を眺める景観の保全と沿道のにぎわい創出を図っています。

✓ 取組方針

大手前通りでは、整備された歩道空間活用と並行して沿道の建物オーナーを中心とした道路の活用・運営組織として「大手前みらい会議(OMK)」を立ち上げ、将来ビジョンの検討を行っています。将来的には沿道建物1階部分の用途を飲食店や物販店などのサービス用途へ変えていくことを目指し、社会実験として活用チャレンジ「ミチミチ」を実施し、まずは大手前通りが姫路の人に活用される取組みから段階的なステップを踏み、将来像の実現に向かっての取組みが2019年から始まっています。

中心部に回遊性を生むためには重要なメインストリートであり、ひと中心の空間活用を進めていく上で優先し環境的にウォークラブルな通りとする必要があります。

困り場 座り場

バス待ちの
滞留行為がある。

巡り場

沿道建物が道に対して
開いている状況。
歩道と連携して活用され、
空間的なデザインも
統一されている。

眺め場

道行く人々を
見守る人がいる。

一体的な利用

座り場 食場

店舗の椅子が出てきて
座っている様子。
姫路城に向かう観光客が、
沿道のにぎわいを眺め
楽しんでいる様子。

食場 眺め場 座り場 陰り場 話し場

人が溜まって滞留行為がある
沿道建物と一体的な利用。

4-5. 検証区域(短期)の考え方

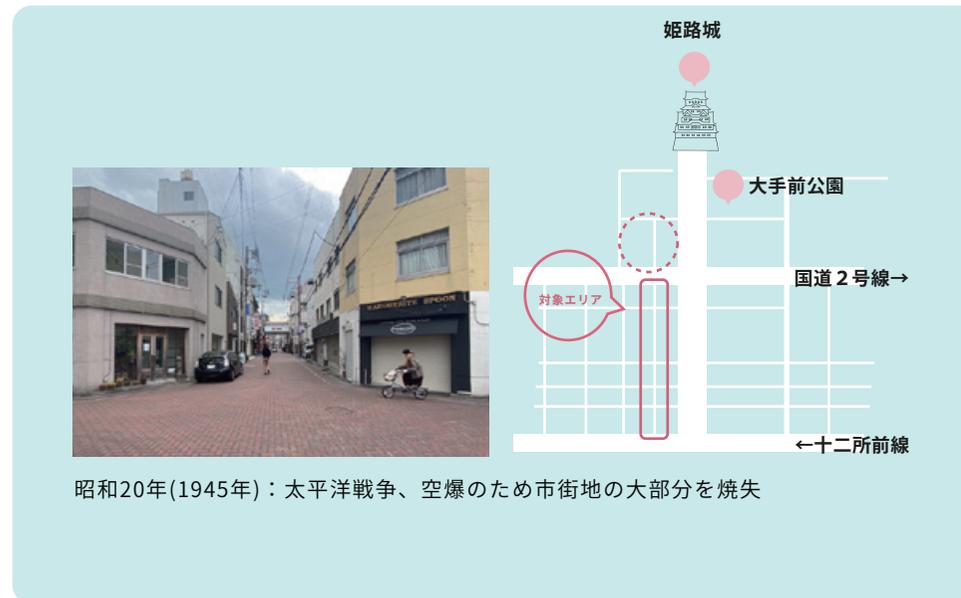
短期
1~2年
検証区域(狭域)

具体的な実施事項
沿道建物のリノベーションを促進
歩車共存道路での交通規制導入
沿道建物による公共空間利活用

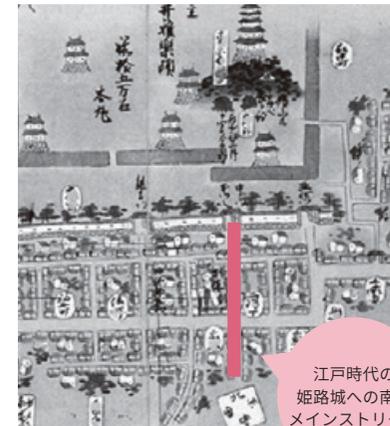
3) 中ノ門筋エリア

POINT

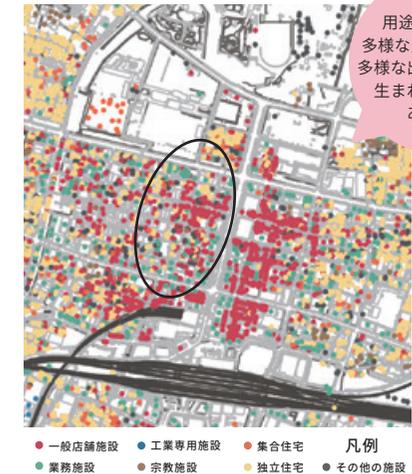
観光客のそぞろ歩きと住民の日常生活が交わる用途混在&歩車共存エリア



江戸時代の姫路城への
南北のメインストリート



図：建物用途の混在状況
(2014年度建物用途現況図)



✓ 状況・経緯

中ノ門筋は江戸時代、姫路城への南北のメインストリートであり、現在に至るまで幅員が変化していない歴史的にも貴重な通りです。近年は中ノ門筋沿いや周辺に小規模資本による飲食店や物販店などの个性的なお店が広がっています。それらの个性的なお店がある背景としては、JR姫路駅の駅前や大手前通り沿いと比べると賃料が安く、事業者がチャレンジしやすい環境があります。

✓ 取組方針

中ノ門筋は歴史的に貴重な通りであり、これまで姫路が築いて守ってきた変らぬ歴史性と、通り沿いの飲食店など新たなアイデアでの活用がエリアとして融合し魅力を高めています。また、このエリアは姫路城とJR姫路駅の間地点に位置していることから、姫路城周辺駐車場を利用する観光客と、JR姫路駅から歩いて姫路城へ向かう観光客の両方のアクセスが期待されます。

周辺には住宅や商業系の用途が混在しており、今後ウォーカブルな環境が促進されることで近隣住民の日常生活の一部としても沿道が活用され、歴史的な通りの背景や価値と合わさり、魅力が高まることが期待されます。そのため中ノ門筋へのウォーカブルな環境の将来的な展開を見据え、本町エリアで沿道活用を検証する社会実験を行い、ウォーカブルな環境づくりの検証を段階的に行っていきます。



話し場

店舗スタッフと
会話をしている様子。

話し場 巡り場

沿道建物が道に対して
開いている状況。
沿道と連携して
活用されている。

話し場 食場 巡り場

沿道建物が道に対して
開いている状況。
沿道と連携して
活用されている。

巡り場

沿道の店舗を巡って
どこに入ろうか探す
ことを楽しむ様子。

座り場 話し場

店舗スタッフと
会話をしている様子。
店舗の椅子が出てきて
座っている様子。

一体的な利用

4-5. 検証区域(短期)の考え方

短期
1~2年
検証区域(狭域)

具体的な実施事項
沿道建物のリノベーションを促進
歩車共存道路での交通規制導入
沿道建物による公共空間利活用

4) 駅西エリア

POINT

意欲的な事業者が新たなチャレンジを始めている用途混在&歩車共存エリア



昭和20年(1945年): 太平洋戦争、空爆のため市街地の大部分を焼失
令和3年(2021年): 第1回リノベーションスクール@姫路

図: 令和2年 路線価MAP



図: 建物用途の混在状況
(2014年度建物用途現況図)



凡例

- 一般店舗施設
- 工業専用施設
- 集合住宅
- 業務施設
- 宗教施設
- 独立住宅
- その他の施設

✓ 状況・経緯

このエリアはかつては卸売市場として200以上の店舗が建ち並び、多くの人が行きかっていたましたが、現在は空き店舗や駐車場が増加しています。2018年には、フードや遊びを兼ね備えたイベントとして、「家族で楽しめる忘年会！」をテーマに道路上で畳とこたつを並べて「メ市(しめいち)」を行っています。

現在はリノベーションを行った新しい店舗が参入するなど、機運が高まっています。

✓ 取組方針

昔ながらの雰囲気が残るこのエリアでは、地元の不動産や建築を再生している「はりま家守舎」らの取組みにより、新しい飲食店が開店するなど、意欲的な事業者のチャレンジが始まっています。JR姫路駅に近い場所でありながら家賃断層帯という立地条件と、卸売市場として、朝主体の業態だった場所においてナイトタイムを主とした飲み屋などの業態が周辺で増えていることから、今後、沿道活用として取組みを推進していくことが望ましいエリアです。また、2021年には同エリアでリノベーションスクールが開催される予定で、これらの動きが加速することが期待されます。

食場 座り場

沿道建物が道に対して開いている状況。沿道と連携して活用されている。

灯り場

建物からの漏れる光で心地良い明るさを保っている。

巡り場

沿道の店舗を巡ってどこに入ろうか探すことを楽しむ様子。

話し場 座り場

店舗スタッフと会話をしている様子。店舗の椅子が出てきて座っている様子。

一体的な利用